

2026年度 授業概要

授業のタイトル (科目名) チームマネジメント	授業の種類 講義	授業担当者 八川 望
授業回数 15回	単位数 2単位	配当学年・時期 2年・後期
必修・選択 必修		
【授業の目的・ねらい】 介護実践は、介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、介護実践をマネジメントするために必要な「①組織の運営と管理」「②人材の育成や活用」「③リーダーシップとフォロワーシップ」など、チームで働く力を養うためのコミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につけることを目指します。		
【達成目標】 ①組織の運営と管理 ・福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる ・ケアを展開するために必要なチームの構成や役割について説明できる ②人材の育成や活用 ・チームでケアを展開するために必要なさまざまな実践力について理解できる ・実践力を高めるために必要な人材育成・開発のしくみ・方法について理解できる ・介護福祉士の様々なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる ③リーダーシップとフォロワーシップ ・チームワークとは何かを理解しそこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる ・様々な介護サービスの事例を活用し、業務課題の発見と解決の過程をイメージできる		
【授業心得】 ○引きつける・・・きっかけの意欲（あれ、おかしい。おもしろそうだな。） ○熱中させる・・・のめり込む意欲（なるほど、わかってきた。できた。） ○続けさせる・・・発展させる意欲（もっとやりたい。自分でやってみたい。）		
【授業計画】 第 1回 ヒューマンサービスとしての介護サービス 第 2回 介護現場で求められるチームマネジメント 第 3回 介護現場におけるチームマネジメントの取り組み 第 4回 ケアを展開するために必要なチームとその取り組み 第 5回 チームでケアを展開するためのマネジメント 第 6回 チームの力を最大化するためのマネジメント 第 7回 介護福祉職のキャリアと求められる実践力 第 8回 介護福祉職としてのキャリアデザイン 第 9回 介護福祉職のキャリア支援・開発 第10回 自己研鑽に必要な姿勢 第11回 介護サービスを支える組織の構造 第12回 介護サービスを支える組織の機能と役割 第13回 介護サービスを支える組織の管理 第14回 業務の課題の発見と解決の方法① ケースメソッドによる学習（個人ワーク・グループワーク） 第15回 業務の課題の発見と解決の方法② ケースメソッドによる学習（クラス討議・まとめ）		
【使用テキスト・参考文献】 中央法規出版介護福祉士養成講座1 「人間の理解」	【単位認定の方法及び基準】 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60、可 59～51、不可 50点以下とし可以上を合格とする	

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭福祉	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 鈴木 智也	
授業の回数 15回	単位数 2単位	配当学年・時期 1年 後期	必修 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕 現代の社会における子どもを取り巻く環境、特に家庭における子ども福祉についての学びを通じ、昨今の課題であるダブルケア等への理解を深める。</p> <p>〔授業の進め方〕 テキストを中心とした講義を展開し、必要に応じて資料を提示する。事例検討を通じて個人学習や集団学習を行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（達成目標）〕 1. 子ども家庭福祉の考え方や理念を踏まえ、その歴史的な展開や流れを理解することができる。 2. 子ども家庭福祉に関する様々な制度や専門職を理解することができる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 現代社会と子ども家庭福祉 現代社会と子ども家庭福祉の二ーズ 3. 子ども家庭福祉の意義と歴史的展開① 歴史的展開 4. 子ども家庭福祉の意義と歴史的展開② 権利擁護に関する取り組み 5. 子ども家庭福祉の制度と実施体制① 制度や法体系 6. 子ども家庭福祉の制度と実施体制② 施設や専門職 7. 子ども家庭福祉の現状と課題① 少子高齢化と地域子育て支援 8. 子ども家庭福祉の現状と課題② 母子保健と子どもの健全育成 9. 子ども家庭福祉の現状と課題③ 多様な保育二ーズへの対応 10. 子ども家庭福祉の現状と課題④ 子ども虐待やDVとその対応 11. 子ども家庭福祉の現状と課題⑤ 社会的養護 12. 子ども家庭福祉の現状と課題⑥ 障害のある子どもへの対応 13. 子ども家庭福祉の動向と展望① 新たな理念と動向 14. 子ども家庭福祉の動向と展望② 複雑化する子ども・子育て支援政策と政策の切れ目の課題 15. 科目のふりかえり 			
〔使用テキスト・参考文献〕 新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉 （中央法規・2023年）		〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定をする。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし可以上を合格とする	

2026年度 授業概要

科 目 名	学 年	開 講 時 期	授 業 形 態	単 位 数	コ マ 数
介護の基本Ⅲ	2 学年	前期	講義	4	30
担 当 教 員 名	開 講 の 曜 日 ・ 時 間 帯 ・ 教 室		担 当 教 員 の a c c e s s		
林 芳 治 ・ 鈴 木 智 也	火 ・ 水 ・ 木 曜 日 の 2 ～ 4 講 目 の い ず れ か		講 義 時 に 連 絡		
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標> 介護福祉の基本となる理念や、地域基盤をした生活の継続性を支援する仕組みを理解する。 <到達目標> 介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。</p>					
2. 授業の進め方（授業方法）					
講義を中心に進める。演習グループワークもする。					
3. 教科書					
介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅱ 中央法規					
4. 参考図書・資料					
介護福祉士国家試験過去問題					
5. 授業心得					
教科書を読んでもらい、質問に応じてもらいます。グループワークでは積極的に参加してください。					
6. 評価の方法					
定期試験 100%					
7. その他					
〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定をする。 試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50 点以下とし可以上を合格とする。					
回	履 修 主 題	履 修 内 容			
1	多職種連携と協働①	多職種連携・協働とは、要請される社会			
2	多職種連携と協働②	連携の必要性和それを阻むもの			
3	多職種連携と協働③	多職種連携・協働の効果			
4	多職種連携と協働④	連携・協働に求められる能力			
5	多職種連携と協働⑤	チーム作り			
6	多職種連携と協働⑥	多様な視点と受容を必要とする協働・問題解決			
7	多職種連携と協働⑦	多職種協働を成功させる介護技術・知識			
8	多職種連携と協働⑧	ホスピタリティ的視点・コミュニケーション能力			
9	多職種連携と協働⑨	専門職連携実践と地域での連携と協働			
10	多職種連携と協働⑩	特養の連携実態調査と自立支援介護の連携			
11	介護従事者の安全①	健康管理の意義と目的 働く人の健康を守る			
12	介護従事者の安全②	介護労働の特性と健康問題 健康管理			
13	介護従事者の安全③	介護従事者の心の健康問題			
14	介護従事者の安全④	ストレスと心の病気			
15	介護従事者の安全⑤	職場で取り組む心の健康管理			
16	介護従事者の安全⑥	介護従事者の身体健康障害			
17	介護従事者の安全⑦	労働環境について 労働条件と労働環境			
18	介護従事者の安全⑧	介護従事者の労働災害 熱中症と労働環境			
19	介護従事者の安全⑨	けがと労働環境の関係			
20	介護従事者の安全⑩	環境整備とけがの予防 まとめ			
21	介護福祉士国家試験の対策①	介護福祉士国家試験の対策①			
22	介護福祉士国家試験の対策②	介護福祉士国家試験の対策②			
23	介護福祉士国家試験の対策③	介護福祉士国家試験の対策③			
24	介護福祉士国家試験の対策④	介護福祉士国家試験の対策④			
25	介護福祉士国家試験の対策⑤	介護福祉士国家試験の対策⑤			
26	介護福祉士国家試験の対策⑥	介護福祉士国家試験の対策⑥			
27	介護福祉士国家試験の対策⑦	介護福祉士国家試験の対策⑦			
28	介護福祉士国家試験の対策⑧	介護福祉士国家試験の対策⑧			
29	介護福祉士国家試験の対策⑨	介護福祉士国家試験の対策⑨			
30	介護の基本のふりかえりとまとめ	介護の基本のふりかえりとまとめ			

2026年度 授業概要

科目名 コミュニケーション技術Ⅱ	授業形態 講義・演習	授業担当 富山 友子																																														
授業回数 15回	単位数 1単位	配当年次・時期 2年次 通年	必修・選択 必修科目																																													
<p>【授業の概要】 演習を中心にしながら、教科書に添って講義形式で行う。 介護場面では利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要となる。コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技術を学ぶ。さらにコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対人援助にかかわる者としてのコミュニケーションのあり方について理解することができる ② 多職種間のコミュニケーション技法について理解し介護実践に活用できる能力を養うことができる ③ 感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している利用者の状態について理解しそれに応じたコミュニケーション技法について学び習得する ④ 介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告等について学びその技術を習得する <p>【授業の進め方】 演習を中心にしながら、プリント等を用いて講義形式で行う。</p> <p>【授業心得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○引きつける・・・きっかけの意欲（あれ、おかしい。おもしろそうだな。） ○熱中させる・・・のめり込む意欲（なるほど、わかってきた。できた。） ○続けさせる・・・発展させる意欲（もっとやりたい。自分でやってみたい。） 																																																
<p>【授業計画】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">第1回</td> <td style="width: 30%;">コミュニケーション障害への対応の基本</td> <td style="width: 40%;">失語症の人への支援</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>コミュニケーション障害への対応の基本</td> <td>認知症、うつ病 抑うつ状態の人への支援</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>コミュニケーション障害への対応の基本</td> <td>統合失調症の人への支援</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>コミュニケーション障害への対応の基本</td> <td>知的障害 発達障害 高次脳機能障害の人への支援</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>コミュニケーション障害への対応の基本</td> <td>高次脳機能障害 重症心身障害の人への支援</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>家族とのコミュニケーション</td> <td>家族への助言・指導・調整 ストレス</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td>報告・連絡・相談</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td>記録の技術</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td>会議進行 説明の技術 事例検討に関する技術</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td>事例検討に関する技術</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td>情報活用と管理のための技術</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>コミュニケーション技術</td> <td>国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>コミュニケーション技術</td> <td>国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>コミュニケーション技術</td> <td>国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>コミュニケーション技術</td> <td>試験 学んだことを振り返り 確認</td> </tr> </table>				第1回	コミュニケーション障害への対応の基本	失語症の人への支援	第2回	コミュニケーション障害への対応の基本	認知症、うつ病 抑うつ状態の人への支援	第3回	コミュニケーション障害への対応の基本	統合失調症の人への支援	第4回	コミュニケーション障害への対応の基本	知的障害 発達障害 高次脳機能障害の人への支援	第5回	コミュニケーション障害への対応の基本	高次脳機能障害 重症心身障害の人への支援	第6回	家族とのコミュニケーション	家族への助言・指導・調整 ストレス	第7回	介護におけるチームのコミュニケーション	報告・連絡・相談	第8回	介護におけるチームのコミュニケーション	記録の技術	第9回	介護におけるチームのコミュニケーション	会議進行 説明の技術 事例検討に関する技術	第10回	介護におけるチームのコミュニケーション	事例検討に関する技術	第11回	介護におけるチームのコミュニケーション	情報活用と管理のための技術	第12回	コミュニケーション技術	国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説	第13回	コミュニケーション技術	国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説	第14回	コミュニケーション技術	国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説	第15回	コミュニケーション技術	試験 学んだことを振り返り 確認
第1回	コミュニケーション障害への対応の基本	失語症の人への支援																																														
第2回	コミュニケーション障害への対応の基本	認知症、うつ病 抑うつ状態の人への支援																																														
第3回	コミュニケーション障害への対応の基本	統合失調症の人への支援																																														
第4回	コミュニケーション障害への対応の基本	知的障害 発達障害 高次脳機能障害の人への支援																																														
第5回	コミュニケーション障害への対応の基本	高次脳機能障害 重症心身障害の人への支援																																														
第6回	家族とのコミュニケーション	家族への助言・指導・調整 ストレス																																														
第7回	介護におけるチームのコミュニケーション	報告・連絡・相談																																														
第8回	介護におけるチームのコミュニケーション	記録の技術																																														
第9回	介護におけるチームのコミュニケーション	会議進行 説明の技術 事例検討に関する技術																																														
第10回	介護におけるチームのコミュニケーション	事例検討に関する技術																																														
第11回	介護におけるチームのコミュニケーション	情報活用と管理のための技術																																														
第12回	コミュニケーション技術	国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説																																														
第13回	コミュニケーション技術	国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説																																														
第14回	コミュニケーション技術	国試対策 過去問題 模擬問題 解答解説																																														
第15回	コミュニケーション技術	試験 学んだことを振り返り 確認																																														
<p>【使用テキスト等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規出版） ・必要資料は適宜配付する。 	<p>【成績評価基準】</p> 学則に基づき、試験・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし以上を合格とする																																															

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅰ	授業の種類 (講義) (演習) 実習	授業担当 鈴木 隆之
授業の回数 15	単位数 1単位	配当学年・時期 2年 前後期
(必修) 選択		
<p>〔授業の概要〕</p> <p>「生活」は一人ひとりの生活習慣や価値観により築き上げられている。利用者一人ひとりのライフスタイルを尊重し、日常生活の継続における家事支援の重要性を学ぶ。また、災害時の介護福祉士の役割について学び、その人らしく生きるために必要な支援方法を適切に実践できる力を養う。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家事支援に必要な知識・技術を学び、利用者を尊重した家事支援を行うための視点を理解する。 2. 災害時の介護福祉士の役割と機能について理解する。 3. 災害時支援における多職種連携の必要性と役割を理解し、介護福祉職との連携のあり方を理解する。 4. 人生の最終段階の意義と介護の役割を理解する 		
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 災害時における生活支援 2 ハザードマップの確認 3 防災に関する地図記号 4 家庭経営・管理の意味と進め方 5 終末期の定義とアセスメントの視点 6 死の受容過程 7 死をむかえる人の介護 8 死をむかえたひとの介護 9 グリーフケア 10 国家試験対策 11 国家試験対策 12 国家試験対策 13 国家試験対策 14 振り返り・まとめ 15 振り返り・まとめ 		
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ	〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60、可 59～51、不可 50点以下とし可以上を合格とする	

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 講義 演習 実習		授業担当者 鈴木 亮平																																																	
授業の回数 45	単位数 3単位	配当学年・時期 1年（通年）		必修 選択																																																	
<p>〔授業の概要〕</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行いための基本的な知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての身なりや態度を身につける。 2. 在宅や施設で暮らす利用者の生活習慣や価値観を尊重し、「その人らしい暮らし」を支えるための基本的な考え方や、支援技術の基礎を身につける。 3. 「生活支援」を利用者目線ととらえ、効率性重視ではない介護福祉士の専門性を理解する。 4. 利用者負担や介護負担を軽減する福祉用具の種類や、特徴に合わせた使用方法について理解する。 <p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>1 起居動作の介助（1年次 振り返り）</td> <td>6 終末期における介護</td> </tr> <tr> <td>2 起居動作の介助（1年次 振り返り）</td> <td>7 終末期における介護</td> </tr> <tr> <td>3 自立に向けた排泄の介助（1年次 振り返り）</td> <td>8 終末期における介護（エンゼルケア）</td> </tr> <tr> <td>4 自立に向けた排泄の介助（1年次 振り返り）</td> <td>9 自立に向けた食事の介護</td> </tr> <tr> <td>5 終末期における介護</td> <td>10 自立に向けた食事の介護</td> </tr> <tr> <td>7 終末期における介護</td> <td>11 自立に向けた食事の介護</td> </tr> <tr> <td>9 自立に向けた食事の介護</td> <td>12 自立に向けた食事の介護</td> </tr> <tr> <td>11 自立に向けた食事の介護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 体位変換とポジショニング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 体位変換とポジショニング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 自立に向けた清潔の介護（清拭）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16 自立に向けた清潔の介護（清拭）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17 自立した排泄の介助（差し込み便器）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18 自立した排泄の介助（尿器）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19 自立した排泄の介助（陰部洗浄）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20 事例演習①</td> <td>21 事例演習①</td> </tr> <tr> <td>23 事例演習②</td> <td>24 事例演習③</td> </tr> <tr> <td>26 総合支援技術①</td> <td>27 総合支援技術①</td> </tr> <tr> <td>29 総合支援技術②</td> <td>30 総合支援技術③</td> </tr> <tr> <td>32 総合支援技術④</td> <td>33 総合支援技術④</td> </tr> <tr> <td>35 総合支援技術⑤</td> <td>36 総合支援技術⑥</td> </tr> <tr> <td>38 総合支援技術⑦</td> <td>39 総合支援技術⑦</td> </tr> <tr> <td>41 総合支援技術⑧</td> <td>42 総合支援技術⑨</td> </tr> <tr> <td>44 振り返り・確認</td> <td>45 振り返り・確認</td> </tr> </table>						1 起居動作の介助（1年次 振り返り）	6 終末期における介護	2 起居動作の介助（1年次 振り返り）	7 終末期における介護	3 自立に向けた排泄の介助（1年次 振り返り）	8 終末期における介護（エンゼルケア）	4 自立に向けた排泄の介助（1年次 振り返り）	9 自立に向けた食事の介護	5 終末期における介護	10 自立に向けた食事の介護	7 終末期における介護	11 自立に向けた食事の介護	9 自立に向けた食事の介護	12 自立に向けた食事の介護	11 自立に向けた食事の介護		13 体位変換とポジショニング		14 体位変換とポジショニング		15 自立に向けた清潔の介護（清拭）		16 自立に向けた清潔の介護（清拭）		17 自立した排泄の介助（差し込み便器）		18 自立した排泄の介助（尿器）		19 自立した排泄の介助（陰部洗浄）		20 事例演習①	21 事例演習①	23 事例演習②	24 事例演習③	26 総合支援技術①	27 総合支援技術①	29 総合支援技術②	30 総合支援技術③	32 総合支援技術④	33 総合支援技術④	35 総合支援技術⑤	36 総合支援技術⑥	38 総合支援技術⑦	39 総合支援技術⑦	41 総合支援技術⑧	42 総合支援技術⑨	44 振り返り・確認	45 振り返り・確認
1 起居動作の介助（1年次 振り返り）	6 終末期における介護																																																				
2 起居動作の介助（1年次 振り返り）	7 終末期における介護																																																				
3 自立に向けた排泄の介助（1年次 振り返り）	8 終末期における介護（エンゼルケア）																																																				
4 自立に向けた排泄の介助（1年次 振り返り）	9 自立に向けた食事の介護																																																				
5 終末期における介護	10 自立に向けた食事の介護																																																				
7 終末期における介護	11 自立に向けた食事の介護																																																				
9 自立に向けた食事の介護	12 自立に向けた食事の介護																																																				
11 自立に向けた食事の介護																																																					
13 体位変換とポジショニング																																																					
14 体位変換とポジショニング																																																					
15 自立に向けた清潔の介護（清拭）																																																					
16 自立に向けた清潔の介護（清拭）																																																					
17 自立した排泄の介助（差し込み便器）																																																					
18 自立した排泄の介助（尿器）																																																					
19 自立した排泄の介助（陰部洗浄）																																																					
20 事例演習①	21 事例演習①																																																				
23 事例演習②	24 事例演習③																																																				
26 総合支援技術①	27 総合支援技術①																																																				
29 総合支援技術②	30 総合支援技術③																																																				
32 総合支援技術④	33 総合支援技術④																																																				
35 総合支援技術⑤	36 総合支援技術⑥																																																				
38 総合支援技術⑦	39 総合支援技術⑦																																																				
41 総合支援技術⑧	42 総合支援技術⑨																																																				
44 振り返り・確認	45 振り返り・確認																																																				
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ			〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし以上を合格とする																																																		

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅲ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 吉澤 親代
授業の回数 15	単位数 1単位	配当学年・時期 2年（通年）
〔授業の概要〕 介護を必要とする人がどのような状態であっても、本人主体の生活が継続できるよう、心身機能の特性を理解し、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 〔達成目標〕 1. 疾病や障害に応じた、利用者の生活のしづらさを理解する。 2. 疾病や障害がもたらす心身機能への影響を理解し、根拠ある介護実践を行える能力を身につける。		必修 選択
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 1 【内部障害】心臓機能障害に応じた介護 2 【内部障害】呼吸器機能障害に応じた介護 3 【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護 4 【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護 5 【内部障害】小腸機能障害に応じた介護 6 【内部障害】HIVによる免疫機能障害に応じた介護 7 【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護 8 重症心身障害に応じた介護 9 知的障害に応じた介護 10 精神障害に応じた介護 11 高次脳機能障害に応じた介護 12 発達障害に応じた介護 13 【難病】筋萎縮性側索硬化症・パーキンソン病に応じた介護 14 【難病】悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護 15 振り返り、まとめ		
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ		〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし可以上を合格とする

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅳ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 畠山 友子
授業の回数 15	単位数 2単位	配当学年・時期 2年 通年
必修 選択		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる能力を養い、利用者を主体とした適切な介護を実践するための思考過程を身につける。事例を通して利用者の様々な生活と介護過程展開の実際について学ぶ。介護過程の理論と実習体験を関連づけながら、介護過程を展開することができる能力の育成を目指す。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（達成目標）〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護過程展開実習において、実存する利用者に対して円滑に介護過程を展開できる。 2) 事例を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力が理解できる。 3) 困難な学習内容にも自ら立ち向かう探究心と意欲が持てる。 		
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 （各時間2h）</p> <p style="text-align: center;">利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントの実際事例1 夫との在宅生活を望むJさんの事例 2. アセスメントの実際事例2 介護老人福祉施設でターミナルを迎えるCさんの事例 3. アセスメントの実際事例3 グループホームで生活するEさんの事例 4. 介護過程展開の実際事例1 介護老人保健施設で生活するAさんの事例 5. 介護過程展開の実際事例2 身体障害者療護施設で生活するEさんの事例 6. 介護過程展開の実際事例3 役割を持って家族と生活するHさんの事例 7. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開【事例1】母親の入院後における精神障害のある人の支援 8. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開【事例2】進行性筋ジストロフィーによる重度の障害のある人の生活支援 9. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開【事例3】在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援 10. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開【事例4】雪国における一人暮らしの高齢者の生活支援 11. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開【事例5】都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援 12. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開【事例6】離島出身の高齢者の在宅復帰支援 13. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開【事例7】片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援 14. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開【事例8】ストレッチャーで入所した高齢者があゝ園に行くまでの支援 15. 介護過程Ⅳ まとめ 学んだことを振り返り確認し振り返りシートにまとめる。 		
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新・介護福祉士養成講座9「介護過程」（中央法規出版） 最新介護福祉士全書7「介護過程」（メチカルフレンド社）</p>	<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし以上を合格とする</p>	

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 八川 望
授業の回数 30	単位数 2単位	配当学年・時期 2年 通年
		必修 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>実習での介護過程の展開の実践に向けて、事例を通して的確な情報収集やアセスメント、計画の立案、実施、評価という一連の流れを理解する。また、実習での経験を踏まえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し必要なスキルを身につける。介護過程の理論と実習体験を関連づけながら、介護過程を展開することができる能力の育成を目指す。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（達成目標）〕</p> <p>1) 介護過程展開実習において、実存する利用者に対して円滑に介護過程を展開できる。 2) 事例を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力が理解できる。 3) 困難な学習内容にも自ら立ち向かう探究心と意欲が持てる。</p>		
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 （各時間2h）</p> <p>1 実習中の介護過程の展開について（施設実習での介護過程の展開）</p> <p>2【事例①演習】アセスメント 課題分析 3【事例①演習】目標設定 介護計画の立案</p> <p>4【事例②演習】アセスメント 課題分析 5【事例②演習】目標設定 介護計画の立案</p> <p>6【事例③演習】アセスメント 課題分析 7【事例③演習】目標設定 介護計画の立案</p> <p>8【事例④演習】アセスメント 課題分析 9【事例④演習】目標設定 介護計画の立案</p> <p>10【事例⑤演習】アセスメント 課題分析 11【事例⑤演習】目標設定 介護計画の立案</p> <p>12【事例⑥演習】アセスメント 課題分析 13【事例⑥演習】目標設定 介護計画の立案</p> <p>14【事例⑦演習】アセスメント 課題分析 15【事例⑦演習】目標設定 介護計画の立案</p> <p>16 介護過程の展開についてまとめ 実習での介護過程の展開</p> <p>17 実習中の担当利用者の介護過程の展開について</p> <p>18 実習中の担当利用者の介護過程の展開について</p> <p>19 事例報告書（抄録）の作成（実習の体験を振り返り抄録を作成する）</p> <p>20 事例報告書（抄録）の作成（実習の体験を振り返り抄録を作成する）</p> <p>21 事例報告書（抄録）の作成（実習の体験を振り返り抄録を作成する）</p> <p>22 事例報告書（抄録）の作成（実習の体験を振り返り抄録を作成する）</p> <p>23 事例報告書（抄録）の作成（実習の体験を振り返り抄録を作成する）</p> <p>24 事例報告書（抄録）の作成（実習の体験を振り返り抄録を作成する）</p> <p>25 介護過程の実践的展開の発表 学びを共有する（報告事例報告書に基づき発表）</p> <p>26 27 国家試験過去問題解説 28 29 国家試験予想問題</p> <p>30 介護過程Ⅲ まとめ学んだことを振り返り確認し振り返りシートにまとめる</p>		
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新・介護福祉士養成講座9「介護過程」（中央法規出版） 最新介護福祉士全書7「介護過程」（メチカルフレンド社） 国家試験問題解説集（クエスチョンバンク）</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし可以上を合格とする</p>

2026 年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅲ	授業の種類 講義・演習	配当学年・時期 2年 前期	授業担当者 鈴木 智也																																													
授業の回数 15回	単位数 1単位	(必修) 選択																																														
<p>〔授業の目的〕 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設の概要や生活の場としての施設の役割について説明することができる。 2) 対象者の状況に応じた適切な介護技術を選択し個別性に応じた介護が実践できる。 また、その介護を振り返り、根拠について説明することができる。 3) 対象者の生活課題(ニーズ)をアセスメントし、利用者にとって実施可能な介護計画を立案、実施することができる。 4) 介護福祉士に求められる倫理と専門性について言語化できる。 5) 自己を客観的に振り返り、実習課題を明確にするとともに介護観を言語化できる。 <p>〔授業の進め方（授業の方法）〕 演習を中心にしながら、プリント等を用いて講義形式で行う。 実習に向けて心構え、予備知識、動機づけ、実習記録の書き方等の講義を中心に演習を交え実施する。実習後の振り返りとして実習報告会の開催に向けて準備をする。</p> <p>〔留意点〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識の技術・知識を統合し、介護実践につながるよう留意する。 2) 実習を振り返り、介護の技術・知識を実践と結びつけ統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養えるよう留意する。 3) 質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解するよう留意する。 																																																
<p>〔授業計画（各回のテーマ・内容）〕</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 30%;">第1回</td><td style="width: 30%;">特養・老健介護実習に向けて</td><td style="width: 40%;">実習個人票・誓約書作成</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>実習個人票・誓約書作成</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>施設概要を調べる</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>実習計画作成</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>実習計画作成</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>実習計画作成</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解・実習先電話がけ</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>特養・老健介護実習に向けて</td><td>介護記録の意義と方法、留意点の理解</td></tr> </table>				第1回	特養・老健介護実習に向けて	実習個人票・誓約書作成	第2回	特養・老健介護実習に向けて	実習個人票・誓約書作成	第3回	特養・老健介護実習に向けて	施設概要を調べる	第4回	特養・老健介護実習に向けて	実習計画作成	第5回	特養・老健介護実習に向けて	実習計画作成	第6回	特養・老健介護実習に向けて	実習計画作成	第7回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解・実習先電話がけ	第8回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解	第9回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解	第10回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解	第11回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解	第12回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解	第13回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解	第14回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解	第15回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解
第1回	特養・老健介護実習に向けて	実習個人票・誓約書作成																																														
第2回	特養・老健介護実習に向けて	実習個人票・誓約書作成																																														
第3回	特養・老健介護実習に向けて	施設概要を調べる																																														
第4回	特養・老健介護実習に向けて	実習計画作成																																														
第5回	特養・老健介護実習に向けて	実習計画作成																																														
第6回	特養・老健介護実習に向けて	実習計画作成																																														
第7回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解・実習先電話がけ																																														
第8回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解																																														
第9回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解																																														
第10回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解																																														
第11回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解																																														
第12回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解																																														
第13回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解																																														
第14回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解																																														
第15回	特養・老健介護実習に向けて	介護記録の意義と方法、留意点の理解																																														
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」 （中央法規出版） 最新介護福祉士全書8「介護総合演習」（メチカルフレンド社） 目で見て覚える！介護福祉士国試ナビ（中央法規出版）</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実習に向けて及び実習後の実習報告会に取り組む姿勢意欲、発表内容、受講態度を100点満点で総合評価 優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし可以上を合格とする</p>																																														

2026 年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅳ	授業の種類 講義・演習	配当学年・時期 2年 前後期	授業担当者 鈴木 智也
授業の回数 15回	単位数 1単位	(必修) 選択	
<p>〔授業の目的〕 介護実習Ⅲの教育効果をあげるため、介護場面を振り返り事例研究としてまとめること。</p> <p>〔到達目標〕 1) 根拠に基づいた介護実践や実習体験を融合させ、事例研究として論理的に表現できる。</p> <p>〔授業の進め方（授業の方法）〕 実習後の振り返りとして実習報告会の開催に向けて準備をする。</p> <p>〔留意点〕 1) 介護実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識の技術・知識を統合し、介護実践につながるよう留意する。 2) 実習を振り返り、介護の技術・知識を実践と結びつけ統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養えるよう留意する。 3) 質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解するよう留意する。</p>			
<p>〔授業計画（各回のテーマ・内容）〕</p> <p>第 1 回 特養・老健介護実習に向けて 実習結団式発表準備</p> <p>第 2 回 実習結団式 概要の確認 目標の確認</p> <p>第 3 回 帰校日指導</p> <p>第 4 回 帰校日指導</p> <p>第 5 回 帰校日指導</p> <p>第 6 回 実習後の評価と振り返り学習 礼状書き 自己評価 レポート</p> <p>第 7 回 実習後の評価と振り返り 目標に対する達成度、反省、課題をまとめる</p> <p>第 8 回 実習後の評価と振り返り 報告事項をまとめパワーポイントを作成する</p> <p>第 9 回 実習後の評価と振り返り 報告事項をまとめパワーポイントを作成する</p> <p>第 10 回 実習後の評価と振り返り 報告事項をまとめパワーポイントを作成する</p> <p>第 11 回 実習報告会リハーサル</p> <p>第 12 回 実習報告会リハーサル</p> <p>第 13 回 実習報告会</p> <p>第 14 回 実習報告会</p> <p>第 15 回 実習後の評価と振り返り学習 1年実習報告会 実習の振り返りと学びの共有化を図る</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」 （中央法規出版）</p> <p>最新介護福祉士全書8「介護総合演習」（メヂカルフレンド社）</p> <p>目で見て覚える！介護福祉士国試ナビ（中央法規出版）</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>実習に向けて及び実習後の実習報告会に取り組む姿勢意欲、発表内容、受講態度を100点満点で総合評価</p> <p>優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50 点以下とし可以上を合格とする</p>	

2026 年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅱ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 畠山 友子
時間数（単位数） 250（6単位）	配当学年・時期 2年次・前期	必修 選択
<p>〔介護実習の目的〕</p> <p>（1）統合</p> <p>学内で学ぶさまざまな科目の内容は、社会福祉制度や生活援助、利用者の理解に関する知識や概念である。それらは利用者の生活に関わる一部分の知識や概念である。それらは関連付けられ、統合化されなければ実践的に活用できない。それらを統合する場が実習である。</p> <p>実習で出会う利用者は、心身機能に障害があり、社会福祉制度を利用し、さまざまな生活ニーズを持ち生きている「個人」である。その「個人」を理解し、その「個人」の生活を少しでも改善しようとするためには、多くの知識や技術を統合的に活用する必要がある。</p> <p>（2）価値観、倫理観</p> <p>援助を行うとき、何を指して行うのかを真摯に考察する必要がある。さらに、援助を展開するときどのような原則に基づいて援助を行うのか考察する必要がある。また、介護福祉士が提供する援助の質は、個別の利用者の生活の質を規定する要因となる。すなわち介護福祉士には高い職業倫理が求められる。</p> <p>（3）専門的技能</p> <p>技能は技術の知識を基にし、実際に体験を重ねる中でしか獲得されない。その体験の場が実習である。学内での演習は原則的な学習である。実際に援助を必要としている利用者は具体的な個人であるため、個別の利用者に必要な介護は個別に存在する。実際の介護は個人である利用者と個人である介護福祉士の関係を土台にして展開される。そこで展開される技能は全く個別のものにならざるを得ない。介護福祉士にとっての介護の技能は、専門職としての自己を表現する技能である。</p> <p>（4）課題</p> <p>学内でさまざまな科目の授業を受け、各時点での自己の能力の過不足は、実際に援助を実施してみなければ分からない。その体験の場が実習である。学生は利用者に関わり、援助を体験し、個別援助計画を検討する中で、自分の能力の過不足を知ることができる。これはその後の学習課題を明らかにする。</p> <p>（5）自己覚知</p> <p>介護という行為は、介護を行おうとする介護福祉士の知識や技能、人格的諸力、体力などを活用して行われる。援助の質は利用者との関係の質にも大きく影響される。関係が不良であれば、いかに知識や技能が優れていても適切な援助はできない。具体的には利用者との向かい合い、自分の感情や意識がどのように動くかを認識し、検証することが必要である。</p> <p>（6）連帯</p> <p>利用者のニーズの多様化に伴い、さまざまな職種が利用者の生活を支えている。その中でも介護福祉士は、利用者にとってもっとも身近な存在といえる。利用者の望むその人らしい生活の実現のため、他職種の理解を深め、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する必要がある。</p>		

〔実習の学習課題〕

- (1) 介護福祉活動における価値（尊厳、自立支援、自己実現）、目標についての認識を深める。
- (2) 利用者の心身の状態を把握する能力を深める。
- (3) 学内での学習を基礎に利用者のニーズを発見する能力を高める。
- (4) 利用者と援助関係を構築する能力を養う。
- (5) 介護過程が展開できる能力を養う。
- (6) 多職種と連携し、協働する能力を養う。
- (7) 施設・事業所運営のあり方の考察を深める。
- (8) 専門職にふさわしい価値観と倫理観を育てる。
- (9) 記録能力を高める。

〔介護実習計画〕

- ① 実習時間 2年次250時間以上
- ② 実習形態及び期間

学 年	実習形態	基準時間（期間）	施設・事業等
2年次	実習（Ⅱ）	264時間（1日8時間 33日間）	施設サービス（老健・特養）

〔介護実習の内容〕

(1) 実習目標

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするためのアセスメント、介護計画の作成、実施、評価、修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。

(2) 実習課題

- ① 利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を理解する。
- ② 一連の介護過程の展開を実践（生活課題の明確化・介護計画の立案・実施・評価）する。
- ③ 基本的な介護技術を熟練する。
- ④ 多職種との連携、協働のあり方を学ぶ。
- ⑤ ターミナルケアの理解を深める。
- ⑥ 介護福祉士を目指す者として専門性のあり方を追及する。
- ⑦ 地域と施設や事業所との連携について理解を深める。

〔評価の観点〕

点 数	内 容
5点	できる（意欲的に行動できており、指導内容を活かしている）
4点	ややできる（意欲的に行動・指導内容を実践のどちらかができている）
3点	ふつう（実習生として最低限の意欲、取り組みができている）
2点	努力を要する（実習に対する意欲があまり見られず、取り組みも消極的である）
1点	できていない（実習生としての心構えができていない、要指導が必要）

〔使用テキスト・参考文献〕

『介護総合演習・介護実習』中央法規出版
 『介護実習要綱』オホーツク社会福祉専門学校
 『介護実習指導者テキスト』日本介護福祉士会

〔単位認定の方法及び基準〕

- ①別紙に基づき現場指導者の評価(40%)と教員の評価(40%)
 - ②介護実習日誌の評価（20%）
- 上記①②を総合的に判断し評価する

別紙 介護実習（Ⅱ）指導者評価表

実習生氏名	実習期間 自. 令和 年 月 日 至. 令和 年 月 日	欠席 遅刻 早退	回 回 回
I 利用者の理解		点 数	
①利用者の状態を観察することができる。			
②利用者の生活上の不自由さを具体的に理解することができる。			
③利用者の生活背景、心身状況など全体像を理解することができる。			
合計点			
II 対人援助の基本的態度（コミュニケーション含）		点 数	
①受容と共感的態度を基盤とし、かかわりを深めることができる。			
②利用者の主体性に尊重した働きかけができる。			
③障がいに対応したコミュニケーションを図り、個別支援につなげることができる。			
合計点			
III 生活支援技術		点 数	
①利用者に適した介護方法を考え、適切な介護を実践できる。			
②介護を必要とする人の意欲を引き出す生活支援を行うことが理解できる。			
③尊厳と自立した生活を支える適切な介護技術について、自分の言葉で説明できる。			
合計点			
IV 施設機能の理解		点 数	
①利用者を取り巻く社会の支援体制が理解できる。			
②施設のサービス全般と社会的役割、地域社会における施設の役割を理解できる。			
合計点			
V 組織の理解		点 数	
①介護職員や関係職種と連携・協働できる。			
②介護過程の展開を通し、チームワークの在り方を理解できる。			
③疾患がある利用者に対する医療職との連携を理解できる。			
合計点			
VI 介護過程		点 数	
①介護に必要な情報が収集でき、情報の解釈と関連づけ、生活課題を明確にできる。			
②介護過程を展開するとともに、利用者や他職種とともに介護計画を立案し、利用者および個別ケアの在り方を学ぶことができる。			
③介護目標の達成や援助内容が適切であったかを評価できる。			
合計点			
VII 倫理と態度		点 数	
①実習生としての立場をわきまえ、礼儀正しく謙虚な姿勢で実習ができる。			
②人間としての平等・尊厳・人権尊重をする介護を具体的場面で実践できる。			
③介護専門職であることを自覚し、行動できる。			
合計点			
実習指導者所見			
<hr/> <hr/> <hr/>			
実習施設名			
令和 年 月 日			
指導者氏名			印

※評価基準は次のとおりとする。

5点:できる 4点:ややできる 3点:ふつう 2点:努力を要する 1点:できない

2026 年度 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 講義	授業担当者 佐藤領子	
授業回数 15 回	単位数 2 単位	配当学年 2 学年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達過程や高齢者に多い症状・老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的、精神的、社会的側面からとらえ、老化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。 <p>〔達成目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達を規定する要因と、発達のしくみを理解する。 ・ それぞれの発達段階に応じた発達課題を理解する。 <p>〔授業の進め方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を尊厳し、各章毎に説明する。 ・ 必要に応じてプリントにて説明する 			
<p>〔授業計画〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 視覚・聴覚・平衡感覚機能の変化・嗅覚・味覚・皮膚機能の変化 2 血液の変化、血圧の変化、心拍出量の低下、ガス交換機能の低下 3 咀嚼機能の変化、嚥下機能の変化、消化吸收機能の低下 4 腎臓の変化、膀胱の変化、尿道の変化、生殖器系の機能の低下と生活への影響 5 代謝にかかわるホルモン、体液や電解質の調整にかかわるホルモン、性ホルモン 6 視覚機能の変化、聴覚機能の変化、注意機能の変化 7 記憶機能の変化と心理的影響、知的機能の変化と心理的影響 8 高齢者の症状・疾病の特徴、骨粗鬆症、高齢者に多い骨折、変形性膝関節症 9 廃用症候群、関節リウマチ、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、パーキンソン病 10 脳血管疾患、目の疾患、耳の疾患、皮膚疾患 11 高血圧、虚血性心疾患、心不全、COPD、肺炎、結核 12 消化性潰瘍、肝硬変、前立腺肥大、慢性腎臓病、糖尿病 13 脂質異常症、痛風、歯周病、悪性新生物、感染症、胆のう炎、疥癬、熱中症、脱水症 14 まとめ 15 保健医療職との連携 			
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版介護福祉士養成講座 12 介護福祉士国試ナビ	〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し 単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60、可 59～51 不可 50 点以下とし可以上を合格とする		

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 (講義) 演習 実習	授業担当者 吉澤 親代	
授業の回数 15	単位数 2単位	配当学年・時期 2年 通年	(必修) 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> 個々の病気や症状の特徴を学びそれらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解し、的確なケアが提供できる知識の育成を目指す。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> 認知症の原因となる病気、日常生活の影響、心の変化、支える家族の心の変化や支援のあり方で思考できる知識を身につける。 <p>〔授業修了時の達成課題（達成目標）〕</p> 認知症の人が尊厳を持ち人生を継続するため支援にあたる人たちの疾病の理解、日常生活への影響の理解など介護のあり方を理解する。			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 第3章 障害をかかえて生きることへの支援 演習 3-1.3-2 3 第3章 障害をかかえて生きることへの支援 演習 3-3.3-4 4 第3章まとめ 5 第4章 認知症ケアの実際 演習 4-1 6 第4章 認知症ケアの実際 演習 4-2 7 第4章 認知症ケアの実際 演習 4-3 8 第4章 認知症ケアの実際 演習 4-4 9 第4章まとめ 10 第5章 家族支援 演習 5-1.5-2.5-3 11 第5章 まとめ 12 第6章 認知症の人の地域生活支援 演習 6-1 13 第6章 まとめ 14 認知症の理解・まとめ 15 認知症の理解・まとめ 			
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規 最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解		〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし以上を合格とする	

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅢ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 吉澤 親代
授業の回数 30	単位数 4単位	配当学年・時期 2年（前・後期）
<p>〔授業の目的・ねらい〕 個人個人に合う介護方法を利用者や家族に根拠を持って説明できるようになるために、生活状態の把握、また、いつもと異なる利用者の生活状態に早めに気づくことの出来る医学知識を学び、専門職種と連携できる実践能力を習得する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているか、その根拠となる知識を習得するとともに、個人個人に合わせた介護方法についての根拠を習得する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（達成目標）〕 根拠となる医学知識の習得、今まで続けてきた活動、参加が継続できるよう支援できる技術の習得</p>		必修 選択
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ復習 2 5章・食事に関連したこころとからだのしくみ 食事のしくみ 3 5章・食事に関連したこころとからだのしくみ 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 4 5章・食事に関連したこころとからだのしくみ 変化の気づきと対応 5 5章・まとめ 6 6章・入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 入浴・清潔保持のしくみ 7 6章・入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 8 6章・入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 変化の気づきと対応 9 6章・まとめ 10 7章・排泄に関連したこころとからだのしくみ 排泄のしくみ 11 7章・排泄に関連したこころとからだのしくみ 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 12 7章・排泄に関連したこころとからだのしくみ 変化の気づきと対応 13 7章・まとめ 14 8章・休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 休息・睡眠のしくみ 15 8章・休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 16 8章・休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみまとめ 変化に気づくためのポイント 17 8章・まとめ 18 9章・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 「死」のとらえ方 19 9章・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 「死」に対するこころの理解 20 9章・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 21 9章・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 終末期における医療職との連携 22 9章・まとめ 23 こころとからだのしくみ・まとめ 24 こころとからだのしくみ・まとめ 25 こころとからだのしくみ・まとめ 26 こころとからだのしくみ・まとめ 27 こころとからだのしくみ・まとめ 28 こころとからだのしくみ・まとめ 29 こころとからだのしくみ・まとめ 30 こころとからだのしくみ・まとめ 		
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし可以上を合格とする</p>

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 佐藤領子	
授業回数 15回	単位数 2単位	配当学年 2学年	必修・選択 必修		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の基礎を理解する <p>〔達成目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 障害の概念、障害の基礎知識を学ぶ。 <p>〔授業の進め方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を尊厳し、各章毎に説明する。 ・ 必要に応じてプリントにて説明する。 					
<p>〔授業計画〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 内部障害・心臓機能障害とは、障害の原因、特性と理解 2 内部障害・呼吸器機能障害とは、原因、特性と治療方法 3 内部障害・腎臓機能障害とは、末期腎不全の治療、障害の原因と症状 4 内部障害・膀胱・直腸機能障害・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 5 内部障害・肝臓機能障害とは、肝炎、肝硬変 6 重症心身障害とは、障害の原因と分類 7 知的障害、知的障害の障害程度、障害の原因 8 精神障害とは、精神障害の原因、障害の種類、統合失調症 9 気分障害、うつ病、アルコール中毒 10 高次脳機能障害とは、主な症状、日常生活上の特徴 11 発達障害とは、種類と特徴 12 発達障害支援方法、ペアレント・メンター、強度行動障害 13 難病法 14 まとめ 15 地域サポート体制 					
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版介護福祉士養成講座 14 介護福祉士国試ナビ			〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し 単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60、可 59～51 不可 50 点以下とし可以上を合格とする		

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 吉澤 親代	
授業の回数 24 講義 14(14回目は30分)・演習 10	時間数（単位数） 1200分 (1年次 1800分・2年次 1200分、合計4単位)	配当学年・時期 2学年・通年	必修 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを安全に実施できるよう、個人の尊厳・保健医療等の制度・救急蘇生・感染予防など医療的ケアに必要な関連知識を理解することができる。 ・医療的ケアにおける「喀痰吸引」に必要な知識・技術を身につけることができる。 ・医療的ケアにおける「経管栄養」に必要な知識・技術を身につけることができる。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>キーワードを明記し、授業を行う。教科書に基づき各章ごとに説明。必要に応じプリント配布、DVD鑑賞し説明する。演習については、シュミレーターを使用し実技。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 消化器系のしくみとはたらき 2 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは 3 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養とは、注入する内容に関する知識 4 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養実施上の留意点、子どもの経管栄養について 5 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 子どもの経管栄養について、経管栄養に関する感染と予防 6 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 7 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 急変・事故発生時の対応と事前対策 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持 8 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養の技術と留意点 9 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養に必要なケア、報告および記録 10 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順振り返り 11 医療的ケア実施の基礎 まとめ・模擬問題 12 高齢者および障害児・者の喀痰吸引 まとめ・模擬問題 13 高齢者および障害児・者の経管栄養 まとめ・模擬問題 14 喀痰吸引・経管栄養実施手順 まとめ・模擬問題 <p>※14回目は30分授業</p> <p>演習 演習は経管栄養・喀痰吸引の班に分け始める。6回目より交代し両方演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2 経管栄養・喀痰吸引 3・4 経管栄養・喀痰吸引 5・6 経管栄養・喀痰吸引 7・8 経管栄養・喀痰吸引 9・10 経管栄養・喀痰吸引 最終実技確認 			
〔使用テキスト・参考文献〕 メチカルフレンド 最新介護福祉全書 13 医療的ケア 中央法規 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア		〔単位認定の方法及び基準〕 学則に基づき、試験・論文・平常点・出席率・その他を考慮し単位認定。試験の評価基準は優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50点以下とし以上を合格とする。演習は評価表に基づく	

2026 年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 情報基礎	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 1年:鈴木亮平・2年:鈴木智也																														
授業の回数 1年 10回/2年5回	単位数 1単位	配当学年・時期 1年 前期/2年 前期																														
必修（学校独自科目）																																
<p>〔1年 授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを実際に操作し、活用できる力を修得する。 ○タブレットの基本操作から応用操作までを身に付ける。 <p>～授業の進め方～ 個人のタブレットを活用し、講義、演習を行う</p> <p>〔2年 授業の目的・ねらい〕</p> <p>プレゼンテーションの基礎を理解し、power ポイントを活用した発表スライドを作成できる能力を修得する。</p> <p>～達成目標～ Power ポイントの活用ができる。</p> <p>～授業の進め方～ パソコン教室にて、ひとり1台パソコンを用いた指導を行う。</p> <p>〔授業心得〕</p> <p>介護福祉士が行う業務でのICTの活用は、組織のコミュニケーションのなかでも重要なものとなることへの理解を深める。</p>																																
<p>【1年】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 タブレットの基本操作</td> <td style="width: 50%;">第2回 電子テキストの操作方法</td> </tr> <tr> <td>第3回 Excelの基本操作(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 20px;">① 起動と画面構成 ② データの入力と簡単な関数 ③ 表の編集・セルの分割/結合</td> </tr> <tr> <td>第4回 Excelの基本操作(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 20px;">① 数値の入力 ② 列幅の調整・フォントの調整 ③ データの配置 ④ 集計・グラフ</td> </tr> <tr> <td>第5回 Wordの基本(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 20px;">① 文字の入力 ② 記号の入力 ③ 罫線をつけよう ④ 体裁を整えよう</td> </tr> <tr> <td>第6回 Wordの基本(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 20px;">① テキストボックスの利用 ② 便利な機能を使いこなそう</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 20px;">③ ワードで実際に対外文書を作ってみよう</td> </tr> <tr> <td>第7回 実習支援システムの操作方法</td> <td>第8回 実習日誌の記載方法</td> </tr> <tr> <td>第9回 実習日誌演習(記録の演習)</td> <td>第10回 振り返りまとめ</td> </tr> </table> <p>【2年】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 PowerPointの基本操作</td> <td style="width: 50%;">① 起動と画面構成 ② スライドの基本操作</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 20px;">③ テンプレートを用いたデザイン ④ アニメーションウィンドウの使用方法</td> </tr> <tr> <td>第2・3・4・5回 PowerPoint作成</td> <td>実習報告会プレゼン資料作成</td> </tr> </table>			第1回 タブレットの基本操作	第2回 電子テキストの操作方法	第3回 Excelの基本操作(1)		① 起動と画面構成 ② データの入力と簡単な関数 ③ 表の編集・セルの分割/結合		第4回 Excelの基本操作(2)		① 数値の入力 ② 列幅の調整・フォントの調整 ③ データの配置 ④ 集計・グラフ		第5回 Wordの基本(1)		① 文字の入力 ② 記号の入力 ③ 罫線をつけよう ④ 体裁を整えよう		第6回 Wordの基本(2)		① テキストボックスの利用 ② 便利な機能を使いこなそう		③ ワードで実際に対外文書を作ってみよう		第7回 実習支援システムの操作方法	第8回 実習日誌の記載方法	第9回 実習日誌演習(記録の演習)	第10回 振り返りまとめ	第1回 PowerPointの基本操作	① 起動と画面構成 ② スライドの基本操作	③ テンプレートを用いたデザイン ④ アニメーションウィンドウの使用方法		第2・3・4・5回 PowerPoint作成	実習報告会プレゼン資料作成
第1回 タブレットの基本操作	第2回 電子テキストの操作方法																															
第3回 Excelの基本操作(1)																																
① 起動と画面構成 ② データの入力と簡単な関数 ③ 表の編集・セルの分割/結合																																
第4回 Excelの基本操作(2)																																
① 数値の入力 ② 列幅の調整・フォントの調整 ③ データの配置 ④ 集計・グラフ																																
第5回 Wordの基本(1)																																
① 文字の入力 ② 記号の入力 ③ 罫線をつけよう ④ 体裁を整えよう																																
第6回 Wordの基本(2)																																
① テキストボックスの利用 ② 便利な機能を使いこなそう																																
③ ワードで実際に対外文書を作ってみよう																																
第7回 実習支援システムの操作方法	第8回 実習日誌の記載方法																															
第9回 実習日誌演習(記録の演習)	第10回 振り返りまとめ																															
第1回 PowerPointの基本操作	① 起動と画面構成 ② スライドの基本操作																															
③ テンプレートを用いたデザイン ④ アニメーションウィンドウの使用方法																																
第2・3・4・5回 PowerPoint作成	実習報告会プレゼン資料作成																															
〔使用テキスト・参考文献〕 実教出版 word&excel2018	〔単位認定の方法及び基準〕 1年～実習日誌にて単位認定 2年～実習報告会発表にて単位認定 学則に基づき内容、優 100～80、良 79～60、可 59～51、不可50点以下とし可以上を受講済とする																															

2026年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 体育	授業の種類 演習	授業担当 1年：鈴木亮平 2年：鈴木智也	
授業の回数 1年10回／2年8回	単位数 1単位	配当学年・時期 1年前期／2年前期	必修（学校独自科目）
<p>〔授業の目的・ねらい〕 運動を通じ、健康維持管理を学び実践する。健康の大切さを理解し、社会生活に役立てることを目的とする。</p> <p>〔授業の進め方〕 自分自身の健康の為、体力作りの計画を立て実行する。トレーニングルームでのマシンを活用し、有酸素運動や筋肉トレーニングを行う</p> <p>〔授業修了時の達成課題（達成目標）〕 基礎体力の向上</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 【1年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 トレーニング計画を立てる 2 各々計画に基づき実行 3 // 4 // 5 // 6 // 7 // 8 // 9 // 10 振り返り <p>【2年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 トレーニング計画を立てる 2 各々計画に基づき実行 3 // 4 // 5 // 6 // 7 // 8 振り返り 			
〔使用テキスト・参考文献〕 2号館ジムで行う。		〔単位認定の方法及び基準〕 受講態度、参加意欲を100点満点で総合評価し、 優 100～80、良 79～60 可 59～51 不可 50 点以下とし可以上を受講済みとする	

2026 年度 授業概要

授業のタイトル（科目名） 進路指導	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 1年:吉澤親代 / 2年鈴木智也	
授業の回数 1年5回 / 2年10回	単位数 1単位	配当学年・時期 1年通年 / 2年通年	必修（学校独自科目）
<p>〔授業の目的・ねらい〕 職業人として責任ある就職意欲、就職活動必要文章作成、面接の受け答えができる力を身に付ける</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 ジョブカフェ、北見公共職業安定所講師によるマナー講座・面接指導・履歴書指導 個人・集団面接練習</p> <p>〔授業終了時の達成課題（達成目標）〕 専門職として意欲を伝えられる面接術の習得</p>			
<p>〔授業の日程と各界のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>【1年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション授業内容について、 Jobcafé マナー講座受講 2 福祉職場説明会へ参加 3 福祉職場説明会へ参加 4 Jobcafe 就職活動に向けて 5 Jobcafe 履歴書作成 注意事項 <p>【2年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 就職活動の約束事確認 就職意向調査委 国家試験受験について 2 福祉職場説明会へ参加 3 福祉職場説明会へ参加 4 国家試験受験申込手続き 個人面談 5 国家試験受験申込手続き 個人面談 6 北見公共職業安定所 面接指導 7 北見公共職業安定所 面接指導 8 Job cafe 面接指導 9 Job cafe 面接指導 10 Job café 新人職員マナー指導 			
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント		〔単位認定の方法及び基準〕 出席数、学習態度によって100点満点で点数化し、優100～80、良79～60 可59～51 不可50点以下とし可以上を受講済とする。	